

徳島型水田農業の推進

高度技術支援課

ねらい

本県の稲作は水田面積の6割、農業粗生産額の1割を占めており、農業経営の中核として農地の維持管理や、園芸品目の裏作としても大きな役割を持っている。

また、水田を中心に農地の維持を図るためには、業務加工用米・酒米・飼料用米等の新規需要米への転換を継続することが重要となっているとともに、現場からは夏季の高温の影響による品質低下に対する技術対策が強く要望されている。

活動地域・対象

県下全域、水稻経営体

普及活動の目標

- 1 高温耐性品種の早生種で1品種を選定
- 2 あきさかり専用基肥一発肥料の改良

目標に向けた活動概要

1 高温耐性品種の現地実証の実施

- ・夏季の高温によりコシヒカリの品質が低下している。
徳島県での高温耐性を確認するため「てんたかく81」「にじのきらめき」の現地実証ほを23カ所設けた。
展示成績の良かった「にじのきらめき」について、現場での普及について検討を行った。



2 あきさかり専用基肥一発肥料等の改善

- ・JA全農とくしまと連携し、専用一発肥料の改善を行い、現地実証を実施。
- ・肥料高騰を受け牛糞や鶏糞の有効活用や減肥についても指導を行った。
- ・プラスチックでコーティングされた肥料が環境問題で取り上げられており、環境に配慮した肥料の導入を行った。



3 飼料用米の推進

- ・水稻栽培講習会や耕畜連携協議会等で飼料用米について説明
- ・県南部のコシヒカリ等を飼料用米としている農家を対象に、多収で良食味の「にじのきらめき」を飼料用米と主食用米の兼用品種として提案。
- ・令和5年から飼料用米補助金の要件が替わる。県南部では小規模農家がコシヒカリ等を飼料用米として納めていた。早生種の飼料用米が求められている。この要件を満たすため新品種「ふくひびき」の推進を行った。

普及活動の成果

1 徳島に適した高温耐性品種の現地実証

【早生品種「にじのきらめき」について】

- ・ 稈長が24cm短く、コシヒカリに比べかなり倒伏しにくいことがわかった。
- ・ また、白未熟粒が4割少なく、高温耐性品種の特性が表れていた。
- ・ 収量と食味は、ほぼコシヒカリと同程度であった。
- ・ 高温耐性及び食味も良いが、市場での知名度が低く、コシヒカリに代わる品種としては、まだ時間が必要であるため、積極的な推進は難しい。

2 あきさかり専用基肥一発肥料等の改善

- ・ 現行肥料の一部を改良した、新しい肥料の展示試験を行った。展示結果は両区の差は認められず。現在販売中の専用肥料を続けることとなった。
- ・ 牛糞や鶏糞を活用し、化学肥料の使用を少なくするニーズが増えた。ほ場の土壌条件に合わせ、具体的な指導を行ってきた。
- ・ プラスチック被覆肥料の環境問題を解決するため、関係機関とも協議し、新しい資材を用いて、一発肥料の実証試験に取りかかっている。

3 飼料用米の推進

- ・ 水稻農家の所得の安定かを図るため各種講習会等において、飼料用米の推進を行った。
- ・ 飼料と主食の兼用品種として、県南部では「にじのきらめき」を勧めてきた。しかし、令和5年から飼料米の補助金で専用品種が優先されるため、急遽、「ふくひびき」の導入に向けた現地試験を行う。
- ・ 制度変更に伴い、全国的に飼料用米専用品種の種子が足りないため、県内で「ふくひびき」の種子生産団地の育成に着手

用語説明

今後の発展方向

- ・ 農業者からは早期米の高温耐性品種導入に強い要望があり、これに対応した活動を重点に置き、極早生の耐性品種も加えて検討を続けて行きます。
- ・ あきさかり専用一発肥料の改善については、現在販売している肥料を続投する。。
- ・ 県南の早期地帯を中心に、早生種の飼料用米が求められている。ふくひびきの導入と種子の安定供給に取り組んでいく。

関係者からの声

(農業者)

- ・ 夏季の高温によりコシヒカリの品質が低下している。コシヒカリに代わる品種が欲しい。
- ・ 飼料用米は晩生の「あきだわら」が中心になっているが、早期地帯では早生種の品種が欲しい。

高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922